

# 日本史

# 日 本 史

**第 1 問** 次の文章 (A～D) の空欄 1 ～ 3, 7 ～ 9, 13 ～ 15, 19 ～ 21 に適する語句を、後の〔語群〕ア～ヤのうちからそれぞれ一つずつ選べ。また下の問い (問 1～13) に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。なお、〔語群〕は第 1 問の最後の 44 ページにある。)

**A** 推古天皇は、1 を父とし、蘇我稲目の娘堅塩媛を母として生まれた。592 年、崇峻天皇が殺害された際、中央有力豪族らの推挙を受けて大王となり、飛鳥に宮を造営した。そして a 三宝興隆の詔を出して仏教の興隆につとめた。

当時、中国では 2 が南北朝を統一するなど勢力を拡大しており、600 年に使節を送って国交を結ぼうとしたが失敗した。これを受けて推古天皇は 603 年、政務をとる朝堂院と儀式を行う朝庭を配した小墾田宮を設けるとともに b 政治改革に着手した。そして 607 年、中国に使節として 3 を送り、翌年には多くの学問僧・留学生を派遣した。c このとき中国にわたった学問僧や留学生が伝えた知識は、のちの大王中心の政治に大きな影響を与えた。

**問 1** 下線部 a に関連して、この時期の前後に建立された寺院について述べた次の文 I・II と、それに関連する下の語句 a～d の組合せとして正しいものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。 4

I 蘇我馬子は、百済から渡来した技術者を使って本格的な伽藍をもつ寺院を建立した。

II 渡来系氏族である秦氏の氏寺で、新羅由来とされる半跏思惟像が安置されている。

a 飛鳥寺      b 法隆寺      c 山田寺      d 広隆寺

① I - a    II - c      ② I - a    II - d

③ I - b    II - c      ④ I - b    II - d

問2 下線部⑥に関して述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

Ⅰ 従来の姓を廃止し、個人の能力や功績に応じて冠位を与えた。

Ⅱ 憲法十七条を定め、朝廷に仕える豪族に対し、官吏として守るべき心得を示した。

① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤

③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

問3 下線部③に関連して、中国から帰国した旻や高向玄理が関わった政治改革について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① 最初の戸籍である庚午年籍を作成した。

② 中国の都城制にならった藤原京を造営した。

③ 評という地方行政組織を各地に設置した。

④ 唐にならって大宝律令を編纂した。

B 後鳥羽天皇は1180年、<sup>④</sup>治承・寿永の乱が始まるなか、高倉天皇の子として生まれ、1183年に平氏が□7を奉じて西国に移ると、祖父である後白河法皇の院宣で即位した。法皇の没後、1198年に土御門天皇に譲位して院政を開始し、<sup>⑤</sup>鎌倉幕府3代将軍源実朝と友好関係を保ちながら朝廷の全国支配権の回復をはかった。文化面では、治世の手段としての和歌の役割に注目し、『□8』の編纂を命じて自らも積極的に関わった。

その後1219年に源実朝が暗殺されると討幕計画を進め、1221年、<sup>⑥</sup>北条義時の追討を掲げて挙兵したが幕府に敗れ、□9に配流された。配流先でも『□8』の増補作業を継続し、18年間にわたる配所生活の末に没した。

問4 下線部④に関連して、治承・寿永の乱以降、鎌倉幕府の成立までの出来事について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。□10

- Ⅰ 源頼朝が東海道・東山道の東国の支配権を承認された。
- Ⅱ 平重衡が南都を攻め、それにともない興福寺などが焼亡した。
- Ⅲ 源頼朝が諸国に守護・地頭を設置する権利を認められた。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

問5 下線部⑤に関して、3代将軍源実朝とその治世に起こった出来事について述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。□11

- a 学問に励み、金沢文庫を設けて和漢の書物を集めた。
- b 和歌に励み、和歌集『金槐和歌集』を残した。
- c 侍所別当和田義盛が、一族とともに滅ぼされた。
- d 宝治合戦で、三浦泰村一族が滅ぼされた。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問6 下線部⑥に関して、この事件後に幕府が行った戦後処理について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。□12

- ① 京都に新たに六波羅探題を設置し、朝廷を監視した。
- ② 上皇方の武士らの所領を没収し、新たに地頭をおいた。
- ③ 仲恭天皇を廃し、新しく後堀河天皇を即位させた。
- ④ 藤原(九条)兼実らを評定衆に任じて政務を合議させた。

C 田沼意次は、徳川吉宗が8代将軍に就任した際、吉宗に従って〔13〕藩士から旗本に転じた田沼意行の子として、1719年、江戸で生まれた。1767年に10代将軍徳川家治の側用人となり、1772年には老中も兼任して権勢をふるった。

この頃、㉔百姓一揆の増加にともなう年貢収納高が微減し、さらに米価が低迷して、幕府財政は再び行きづまりつつあった。そこで田沼は、〔14〕の干拓工事を始めるなど新田開発に着手する一方、民間の経済活動を幕府財政に組み込もうとした。また1772年に㉕南籙二朱銀を発行し、金遣い・銀遣いの二元的な日本国内市場の統合をはかるとともに、都市や農村で株仲間を積極的に公認して営業税の増収をはかった。長崎貿易にも積極的で、中国向けに〔15〕の輸出を奨励した。一方、ロシア人が蝦夷地に接近する中、㉖仙台藩医工藤平助の意見を取り入れて対応をはかろうとした。

問7 下線部㉔に関して、江戸時代の百姓一揆の形態について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。〔16〕

- Ⅰ 物価の高騰を機に、各地で「世直し」を掲げた大規模な一揆が起こった。
- Ⅱ 村役人層の指導のもとに一般の農民が年貢減免などを要求する惣百姓一揆が広がった。
- Ⅲ 名主（庄屋・肝煎）などの村役人が、農民たちを代表して年貢減免などを領主に直訴した。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

問8 下線部㉕に関して述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。〔17〕

- Ⅰ 南籙二朱銀は、8枚で小判1両と交換できた。
- Ⅱ 江戸では金貨、大坂では銀貨が主に使用されていた。

- ① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤
- ③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

問9 下線部①に関して、次の史料は工藤平助の娘である只野真葛<sup>ただのまぐず</sup>が著した随筆『むかしばなし』の一節である。この史料に関して述べた下の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。 18

用人<sup>(注1)</sup> いう、「我が主人<sup>(注2)</sup> は、富にも禄にも官位にも不足なし。この上の願いには、田沼老中の時、仕置きたる事とて、ながき代<sup>よ</sup>に人のためになる事をしおきたく願うなり。何わざをしたらよからんか」と問い合わせしに、父様<sup>(注3)</sup> 御こたえに、「それはいかにもよき御心付<sup>こころつけ</sup>なり。さあらば、国を広くする工夫よろしかるべし」。

問<sup>(注4)</sup> 「それは、いかがしたる事ぞ」。

答<sup>(注5)</sup> 「それ、蝦夷国は松前より地つづきにて、日本へ世々<sup>したが</sup> 随<sup>お</sup>い居る国なり。これをひらきて、みつぎ物をとる工面をなされかし。日本を広くせしは田沼様のわざとて、永々人の仰<sup>あお</sup>ぐべき事よ」。

(只野真葛『むかしばなし』)

(注1) 用人：ここでは田沼意次の家臣。 (注2) 我が主人：田沼意次。

(注3) 父様：工藤平助。 (注4) 問：用人の問い。

(注5) 答：工藤平助の答え。

Ⅰ 田沼の家臣は、主人は人のためになる仕事をしたいと願っていると述べている。

Ⅱ 田沼は工藤の意見を取り入れ、間宮林蔵らを派遣して蝦夷地開発の可能性を調査させた。

① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤

③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

D 1837年、太政大臣まで昇進できる上層公家の家に生まれた[19]は、①尊王攘夷派の中心的な公家として活躍したが、1863年、八月十八日の政変で失脚した。1867年12月に王政復古の大号令によって新政府が成立すると、京都にもどって三職の一つで皇族・公卿・諸侯が任命される[20]に就任し、1871年の廃藩置県後には太政大臣に任じられて政府の中心となり、②右大臣岩倉具視ら使節団を米欧に派遣した。

1873年には征韓論争の收拾に失敗して明治六年の政変を招いたが、③以後も太政大臣の地位についた。1885年、内閣制度の発足にともなって[21]となり、1889年に④黒田清隆首相が退陣した際、一時的に首相を兼任したが、同年末、山県有朋が首相に任じられると再び[21]専任となった。

問10 下線部①に関連して、尊王攘夷派の動きについて述べた次の文I・IIについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 [22]

I 孝明天皇は当初、日米修好通商条約の調印に勅許を与えなかった。

II 薩摩藩は、下関の海峡を通過する外国船を砲撃する事件を起こした。

① I－正 II－正      ② I－正 II－誤

③ I－誤 II－正      ④ I－誤 II－誤

問11 下線部②に関連して、岩倉使節団に随行した次の人物I・IIと、それに関連する下の説明a～dの組合せとして正しいものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。 [23]

I 津田梅子      II 久米邦武

a アメリカに留学して帰国後、女子英学塾を開いた。

b 使節に随行して帰国後、慶応義塾を開いた。

c のちに論文「神道は祭天の古俗」で、神道家らの攻撃を受けた。

d のちに『古事記』『日本書紀』に、科学的な分析を加えた。

① I－a II－c      ② I－a II－d

③ I－b II－c      ④ I－b II－d

問 12 下線部①に関連して、空欄 19 が太政大臣の地位にあった時期の出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 24

- Ⅰ 政府が、1890（明治 23）年に国会を開設することを公約した。  
 Ⅱ 華族令が出され、国家に功績のあった人物も華族になれるようになった。  
 Ⅲ 江藤新平が佐賀の不平士族に擁され、政府に対して反乱を起こした。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ                      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ                      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ  
 ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ                      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ                      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

問 13 下線部㉓に関連して、黒田内閣の条約改正交渉について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 関税自主権の回復を実現することを目標とした。  
 ② 東京に欧米諸国の代表を集め、合同で交渉を行った。  
 ③ 外国人判事の任用と、欧米同様の法典の編纂を条件として交渉した。  
 ④ 交渉にあたり、大審院への外国人判事の任用を認めた。

〔語群〕

ア 雄略天皇	イ 紀伊	ウ 魏	エ 文華秀麗集
オ 順徳天皇	カ 高向玄理	キ 児島湾	ク 三条実美
ケ 犬上御田歙	コ 議定	サ 隠岐	シ 枢密院議長
ス 俵物	セ 古今和歌集	ソ 継体天皇	タ 有明海
チ 崇徳天皇	ツ 総裁	テ 隋	ト 内大臣
ナ 一橋	ニ 佐渡	ヌ 生糸	ネ 新古今和歌集
ノ 宮内大臣	ハ 木戸孝允	ヒ 印旛沼	フ 参議
ヘ 欽明天皇	ホ 小野妹子	マ 西郷隆盛	ミ 尾張
ム 安徳天皇	メ 唐	モ 伊豆	ヤ 銀

**第2問** 次の文章 (A～C) を読み、下の問い (問1～8) に答えよ。

A 日本列島で本格的な水稲農耕が展開するのは、紀元前4世紀頃 (一説によれば紀元前10世紀頃)、九州北部で水稲農耕が行われるようになって以降のことであり、やがて<sup>Ⓐ</sup>列島各地に広まった。そして、水稲農耕に関する祭祀は人々の生活において重要な役割を果たすようになった。古墳時代頃から春に祈年の祭、秋に新嘗の祭が行われ、<sup>Ⓑ</sup>初穂を神々に捧げる儀礼も広く行われた。

問1 下線部<sup>Ⓐ</sup>に関連して、水稲農耕が定着しなかった地域について述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 26

Ⅰ 北海道では、サケ・マスなどの食料採取を中心とする続縄文文化が展開した。

Ⅱ 南西諸島では、貝類などの食料採取を中心とする貝塚文化が展開した。

① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤

③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

問2 下線部<sup>Ⓑ</sup>に関して、律令制下の税目のうち、初穂儀礼を起源としたものとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

① 租      ② 庸      ③ 調      ④ 雑徭

**B** 中世には、天候不良や水害などにより飢饉が頻発した。農業はこうした環境に対応する形で発展した。食料不足に備えるために米の裏作として別の作物を栽培する **ア** が広まり、災害に強く多収穫な大唐米が多く作付けされた。また、都市の発達にともない、**㉔** 都市での需要に対応した農作物の栽培も広く行われた。

近世には、統一政権のもとで大規模な新田開発が行われ、小規模な農業経営を行う百姓が広く成立した。そして **㉔** 労働集約型の農業技術が発達し、宮崎安貞が著した『**イ**』などの農書を通じて各地に広まった。

**問3** 空欄 **ア** ・ **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **28**

- ① **ア**－二期作 **イ**－農業全書
- ② **ア**－二期作 **イ**－広益国産考
- ③ **ア**－二毛作 **イ**－農業全書
- ④ **ア**－二毛作 **イ**－広益国産考

**問4** 下線部**㉔**に関して述べた次の文 **I** ・ **II** について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **29**

- I** 各地で菜種が栽培され、山城の大山崎などで灯油の原料とされた。
- II** 文書の使用が広まり、和紙の原料となる楮が栽培された。

- ① **I**－正 **II**－正      ② **I**－正 **II**－誤
- ③ **I**－誤 **II**－正      ④ **I**－誤 **II**－誤

**問5** 下線部**㉔**に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **30**

- ① 田畑を深く耕すのに適した備中鍬が開発された。
- ② 風を起こして米粒ともみ殻などを選別する唐箕が作られた。
- ③ 踏車が発明され、龍骨車に代わる揚水車として普及した。
- ④ 刈敷や干鰯など、速効性に富む金肥の使用が広がった。

C 幕末の開港期以降、<sup>e</sup>貿易と国内工業の発達にともなって農業は大きな影響を受けた。また、都市人口が増加して食料需要が増大すると、米の収穫高は増えていたものの供給は不足がちとなり、明治末には輸入が増加した。第一次世界大戦の末期、を契機として米騒動が発生すると、政府は米の供給安定を確保するため朝鮮や台湾で米作の拡大を進めた。しかし、かえって供給過剰に陥り、1920年代以降は米価が低迷し、<sup>f</sup>零細な経営が多かった農家の生活は厳しくなった。

第二次世界大戦後、1950年代半ばから高度経済成長が始まると、工業と農業との経済格差が拡大した。そこで政府は1961年にを定めて自立経営農家の育成を進め、零細な農家に離農や経営の転換をせまろうとした。しかし政府の意図とは別に、兼業農家が増加する結果となった。

問6 空欄・に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウーシベリア出兵 エー農業基本法
- ② ウーシベリア出兵 エー自作農創設特別措置法
- ③ ウー山東出兵 エー農業基本法
- ④ ウー山東出兵 エー自作農創設特別措置法

問7 下線部<sup>e</sup>に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- a 生糸の輸出拡大とともに、原料の繭を供給する養蚕が盛んになった。
- b 製糸業が原料の繭を輸入でまかなったため、養蚕が衰退した。
- c 綿糸の輸出拡大とともに、原料綿花の栽培が盛んになった。
- d 紡績業が原料の綿花を輸入でまかなったため、綿花の栽培が衰退した。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問8 下線部①に関連して、1930年代から1940年代にかけての農業や農家のあり方に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 33

Ⅰ 世界恐慌や豊作などの影響により、農業恐慌が発生した。

Ⅱ 農地改革が行われて地主の貸付地が制限され、寄生地主制が解体された。

Ⅲ 国家総動員法に基づき、小作料額を統制する勅令が出された。

① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ

② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ

③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ

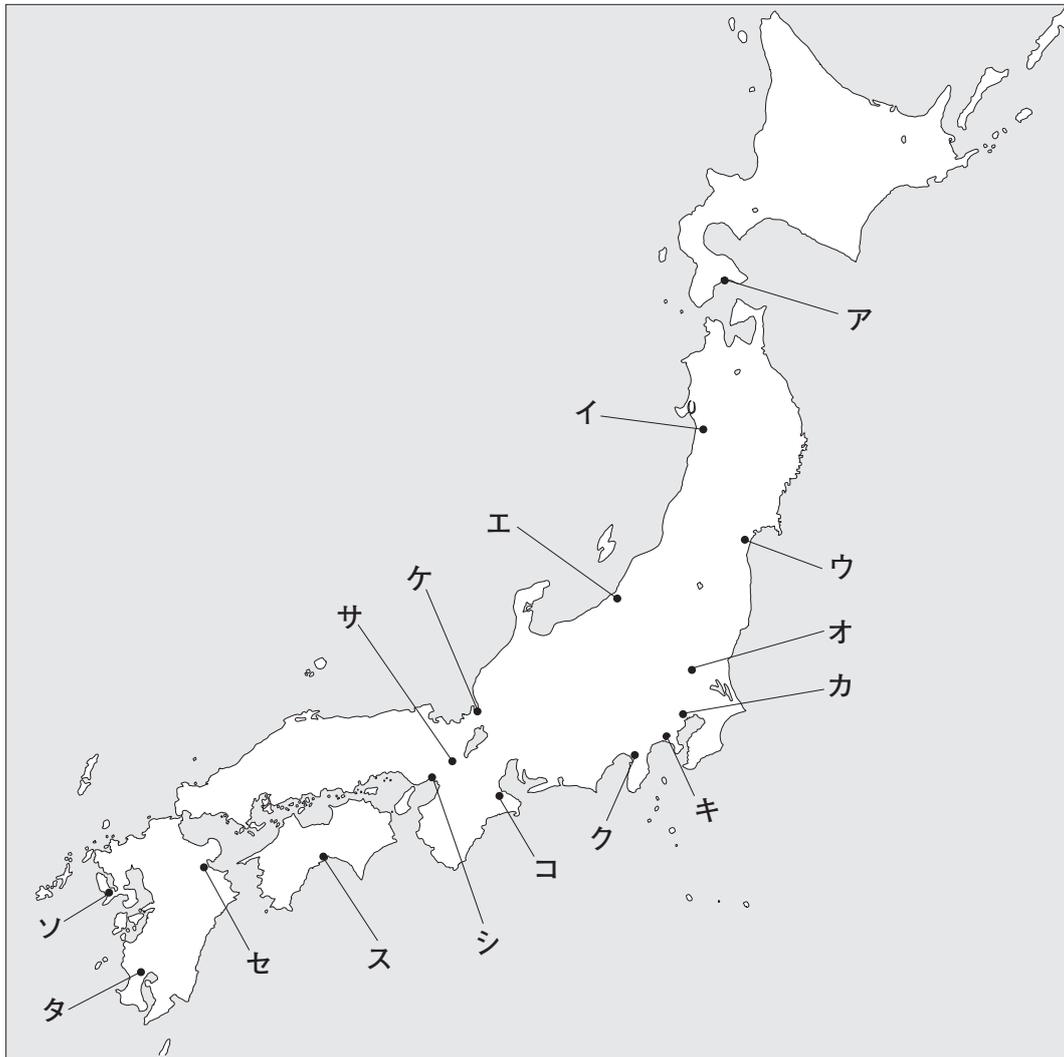
④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ

⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ

⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

**第3問** 次の①～⑤は古代から近世までの用語・出来事であるが、最も関係の深い場所を、下の地図中のア～タのうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- ① 多賀城
- ② 中先代の乱
- ③ 古河公方
- ④ 明暦の大火
- ⑤ 生田万の乱



**第4問** 次の文章（A～C）を読み、下の問い（問1～7）に答えよ。

A 律令制度は<sup>a</sup>文書行政が基本とされ、貴族・官人には漢文を使いこなす能力が求められた。そのため、貴族・官人らは漢字・成句の習得に励んだ。8世紀の都や各地の国衙の跡地からは『論語』などの一節を書き記した木簡が多く発見されている。<sup>b</sup>9世紀には漢文学の教養を重視する文章経国の思想が広まり、多くの貴族の子弟が大学で学ぶようになった。

問1 下線部<sup>a</sup>に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

39

- ① 律令やさまざまな法令は、漢文で書かれた。
- ② 詔勅の文案は、中務省が作成を担当した。
- ③ 調・庸などの課税台帳として計帳が作成された。
- ④ 人民の登録台帳として戸籍が毎年作成された。

問2 下線部<sup>b</sup>に関連して、この時期の文化について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 40

- ① 現存最古の漢詩集である『懐風藻』が編纂された。
- ② 石上宅嗣は芸亭を設け、所蔵する書物を人々に開放した。
- ③ 最初の勅撰漢詩集である『凌雲集』が編纂された。
- ④ 義堂周信らが宋学の研究や漢詩文の創作に活躍した。

B 室町時代や戦国時代には、㉓広い範囲で文字による記録・伝達が行われており、武士をはじめとして有力な商工業者、惣村の指導者層にいたるまで広い階層の人々にとって、文字の読み・書き能力が必要とされた。

江戸時代には、㉔領主が町や村に出す法令や、町や村が領主に提出する願いの多くが文書で出され、また、百姓が商業を営んだり商家に奉公したりすることも増えた。庶民のあいだでも教育への要求が高まり、各地で寺子屋（手習所）が開かれたり、㉕学問塾が設けられたりした。

問3 下線部㉓に関連して、室町時代と戦国時代における文字の使用に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 41

- ① 紀伊国の阿氏河荘民が、地頭の非法を訴えた文書を荘園領主に提出した。
- ② 奈良県の柳生にある徳政碑文は、一向一揆の成功を記念したものである。
- ③ 戦国大名は惣掟（村法・村掟）を定め、領民に対して公布した。
- ④ 『庭訓往来』や『御成敗式目』が読み・書きの教科書として用いられた。

問4 下線部㉔に関連して、幕府が出した法令や村々が提出した願いについて述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 42

- Ⅰ 寛永の飢饉のあと、幕府が田畑永代売買の禁止令を出した。
- Ⅱ 幕府が生類憐みの令の一環として、捨子の禁止を命じた。
- Ⅲ 広く連合した村々により、国訴とよばれる訴訟闘争が行われた。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

問5 下線部㊸に関連して、江戸時代に各地で設けられた学問塾について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 43

- ① 儒学者の伊藤仁斎は、江戸に芝蘭堂を開いて古義学を講じた。
- ② 懐徳堂は、大坂町人の共同出資によって設立された。
- ③ ドイツ人のシーボルトは、長崎郊外の鳴滝塾で高野長英らを育てた。
- ④ 儒学者の広瀬淡窓は、豊後国の日田に咸宜園を設けた。

C 明治政府は1872年に学制を公布して以降、国民皆学の理念を掲げて各地で小学校の設立を進めた。そして、1886年に尋常科と高等科で構成される小学校を制度として整え、<sup>①</sup>義務教育を導入した。

一方、高等教育については、江戸幕府が幕末開港期に開設した洋学の研究・教授機関などを受け継ぎ、1886年に「国家の須要」に応じる学問を教授・研究する機関として<sup>②</sup>帝国大学を創設した。

問6 下線部<sup>①</sup>に関連して、これ以降の義務教育のあり方について述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 44

- a 義務教育期間の授業料は、明治・大正期を通じて保護者が負担した。
- b 日清戦争の賠償金をもとに、義務教育期間の授業料が廃止された。
- c 日露戦争後、義務教育は尋常科の4年間に統一された。
- d 第二次世界大戦後、教育基本法によって義務教育が9年に延長された。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問7 下線部<sup>②</sup>に関連して、この時点での大学制度について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 45

- ① 帝国大学令は、中学校令や師範学校令と同じ年に制定された。
- ② 東京帝国大学と京都帝国大学の二校が、初めての帝国大学として創設された。
- ③ 帝国大学では、外国人を教師として採用することが禁じられていた。
- ④ 帝国大学令と同時に、公立・私立大学のための大学令が出されていた。

(日本史の問題は終わり)